

あきは 区役所だより

毎月第1・3日曜日発行

2026年(令和8年)

5月17日

第459号

里山と水に囲まれて 花と緑あふれる 笑顔咲きそろうまち

区の人口

人口: 72,957人 (-46)
男: 35,154人 (-22)
女: 37,803人 (-24)
世帯数: 31,321世帯(+54)
令和8年4月末現在(カッコ内は前月比、住民基本台帳による)

編集・発行 新潟市秋葉区役所(制作:地域総務課) 〒956-8601 新潟市秋葉区程島2009番地 電話 0250-23-1000(代表)

絵本の世界へ

飛び込もう!

5月23日(土)

→ 8月30日(日)

新津美術館で開催

絵本の世界へ

世代を超えて愛される
7つの絵本の世界を
体感できる展覧会

絵本の見開きいっぱい広がる、色とりどりのおいしそうなパン。『からすのパンやさん』の世界へようこそ!「今日はどのパンにしようか」と、思わず悩んでしまいます。色紙でパンを作ったり、お気に入りのパンと写真撮影を楽しんだり、胸躍る体験が待っています。



©Kako Research Institute Ltd. 1973

そこは絵本の森。桜の花びらの下で、800冊もの絵本を楽しむことができます。「春きたよ、春きたよ」どこからともなく聞こえてきたのは、春の知らせ。『さくらのふね』に登場する、動物や鳥、蝶たちと共に春の訪れを感じ、草花のじゅうたんの上でゆったりと絵本の世界に浸りましょう。



©Chiki Kikuchi

「絵本の世界に入ってみたい」と思ったことはありませんか。長らく工事休館していた新津美術館のこけら落としとなる本展は、「絵本」と「おでかけ」をテーマにした展覧会です。会場には、『からすのパンやさん』や『ぐるんぱのようちえん』など、世代を超えて親しまれてきた7つの絵本を題材とした空間が広がり、まるで物語の中に入り込んだかのような、不思議で楽しいひとときを味わえます。小さな子どもにも親しみやすく、ミュージアムデビューにもぴったりです。子どもたちの感性や創造力を刺激する展覧会に出掛けてみませんか。

関連イベント

おすすめ

ミュージアムコンサート
「0さいからのMusic&Stories」

日時 5月30日(日) 11時開演
(開場は10時45分から)
会場 同館 レクチャールーム
出演 まんまるミュージック



まんまるミュージック

UXアナウンサーによる
絵本の読み聞かせ

日時 6月7日(日) 11時から、
13時半から
(各回30分程度)
会場 同館 レクチャールーム
定員 各回先着50人

ボランティアによる絵本の読み聞かせ

日時 7月11日(土) 11時から、14時から
(各回30分程度)
会場 同館 レクチャールーム
定員 各回先着20人

その他、「マーブリングであそぼう」「絵本づくりワークショップ」を開催予定。詳細は、市ホームページ(二次元コード)をご確認ください。

チケットプレゼント

無料招待券を
抽選で5組10名様にプレゼント!

問い合わせ 地域総務課広報担当(☎25-5673)

応募方法: 5月27日(水)(当日消印有効)までにはがき、ファクス、新潟市オンライン申請システム(二次元コード)のいずれかで下記【必要事項】を明記の上、秋葉区役所地域総務課広報担当へ(〒956-8601 程島2009番地、☎22-0228)
【必要事項】①氏名②住所③電話番号④あきは区役所だよりの感想



※応募は1人1通、当選者の発表はチケットの発送をもって代えます(6月中旬)



新潟市
新津美術館
〒956-0846
秋葉区浦ヶ沢109-1
☎25-1300

開館時間 10時~17時(観覧券販売は16時半まで)
休館日 月曜日
(ただし6月15日、7月20日、8月10日、8月24日は開館)
観覧料 一般1,600円、大学・高校生1,400円
※中学生以下、障がい者手帳・療育手帳をお持ちの方は無料(受付でご提示ください)

新津図書館司書が

テーマとなっている絵本を紹介

「おでかけ!絵本ミュージアム」でテーマとなっている7つの絵本は、新津図書館でも楽しむことができます。今号では新津図書館司書が、おすすめの3つの絵本を紹介します。



『からすのパンやさん』

かこ さとし/作・絵
偕成社 1973年

4わの子どもたちがいるからすのパンやさん。売れ残ったり焦げたりしたパンを子どもたちのおやつにしていたところ、他のからすたちからも食べてみたいと評判に。からすのパンやさんは、たくさんの種類のパンを作り、お店は大人気になりました。

いちごパン、かえるパン、ぼうしパンなど、きっとあなたの好きなパンもありますよ。



『ぐるんぱのようちえん』

西内 ミナミ/作
堀内 誠一/絵
福音館書店 1966年

ひとりぼっちでジャングルに暮らしていた大きなぞうのぐるんぱは、町に出て働くことにしました。ビスケットを作ったりお皿を作ったりしますが、どれも大きすぎて、「もうけっこう」と言われてしまいます。しょんぼり歩くぐるんぱに、ある人が手伝ってほしいと声をかけます。ぐるんぱの作った大きなものがとっても役立ちました。



『はじめてのおつかい』

筒井 頼子/作
林 明子/絵
福音館書店 1977年

5歳のみいちゃんは、ママにおつかいを頼まれました。坂のてっぺんのお店に牛乳を買いに行くことです。お金を握りしめて、出発するみいちゃん。途中ですれ違う大人の自転車は早くてびっくりするし、お店に着いてもなかなか気付いてもらえないし…。ちゃんとおつかいできるかな?みいちゃんのドキドキする気持ちを一緒に感じられる絵本です。